

ふじさわネット通信

2026年2月 第65号

発行 みんなの教育・ふじさわネット
代表 松本 一郎 TEL・FAX 0466-33-4820
ホームページ <https://mkfnet.com>
E-mail info@mkfnet.com



6月7日みんなの教育・ふじさわネット学習会

講師 **児美川(こみかわ)孝一郎さん**
法政大学キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科教授

著書 ○新自由主義教育の40年：「生き方コントロール」の未来形、青土社、2024年 ○「教育改革」は何を改革してきたのか：学校と教育の現在（リアル）、誠信書房、2025年

日時 2026年6月7日(日) 13:30～
会場 藤沢市 F プレイス多目的室(予定)
(藤沢市本町1丁目12-17)



[共著 大月書店]



学習会 & 総会

ICT?

感想の紹介

どうなるの??
これからの教育



デジタル化?

タブレット?

2026年1月25日(日)13:30～15:30

みんなの教育・ふじさわネットは、1月25日(日)藤沢市役所会議室で、学習会と総会を開催しました。学習会は「どうなるの??これからの教育」をテーマに、話題提供者杉本克彦さんが、①学習指導要領改訂の動き②教育DXについて③デジタル環境と子どもの「からだ心」④教育のデジタル化を見直す世界の流れ⑤デジタルで基礎学力がつくか⑥教職に生きがい、を柱に資料を提示しわかりやすく語りました。参加者の感想を紹介します。

「学習指導要領」ってなんだ?

子どもたちの成長を考えるなかで 人間として生きていくうえで何を大事にしていくのか?原点にかえて「教育」というものを見なおしてほしい。

一番は日常生活、私たち親・大人もとくに忙しい時子どもにスマホやタブレットを簡単に与えておけば“楽”であるが考えなければとりかえしがつかない?かなと思う。

わかりやすい資料で、今の教育の問題点がわかった気がします。ありがとうございました。デジタル化を見なおし始めている国もあるようですが、日本も早く見直すきっかけが何かおこらないかと期待してしまいます。AIが人間を超える社会が近づいているような、私たちの知識の範囲では追いつけない世の中になってしまうのではないかと恐ろしくなります。

教育のデジタル化 DX など初めて聞く言葉や実態についてわかりやすくお話しいただき、参加して良かったと思えました。ありがとうございました。

海外と比べて日本はおくれているのかな～?。諸外国で変更していることを日本は始めていこうとしている、子どもたちが心配です。先生方も大変です。

家族はいてもそれぞれスマホにむかって会話のない時間があります。これも心配です。今後も考えていきたいです。

デジタル先進国で次々とデジタル化を見なおす動きが進んでいる中、日本は今になって更にこれを進めようとする気が知れない。上手につきあうというより圧倒的にのみこまれ、悪影響の方が大きいのに。政府も文科省も本当はわかっているのに。大企業のもうけ!

今の大人世界の人達は、小学校・中学校はデジタルを使って教育は受けていない。

その大人がデジタル化は便利だと考え使わせるようにしたのでしょうか。国のデジタル化の目的は何なのでしょう。日本でもデジタル化を考えないといけないのではないかと思います。

※感想は裏面に続きます。

今日はありがとうございました。まとめてくださったレポートがとてもわかりやすかったです。各国の状況等本当に見やすいです。学校にも色々訴えています、日本は遅れてる！と理解しやすいです。各国の発言をきくと、日本も続いてほしいです！

たくさんお調べになられ、貴重な資料をありがとうございました。GIGA スクール構想、ICT 教育に強い違和感があり、その問題と向き合っているところです。我が子が現在、中2、小5、孫も2歳と居て、これからの教育に対し、少しでもメスを入れられたらと思っています。今後どうぞよろしくをお願いします。(スマホ依存防止アドバイザーをしています。)

デジタル化が進むと人間としての機能が出来なくなる。エンピツを持つことが出来なくなる、キニクが動かなくなる、目も疲れる。今では性ハンザイが起きている、ITなどいらぬ。

ここの集まったみなさんのように、“考える”ことが、現役の先生にはできなくなっている様に感じました。電子黒板・タブレット操作で子どもの目を見る時間は明らかに減っています。授業も動画の様で、子がその学びから“気づく”こと、“わかった！”と感動することがなくなっているようです。いま、何ができるか、声をあげなければと思っています。

“まちづくり”の視点から子どもの環境を考えています。その環境（地域）がだいぶ前から狭くなっています。地域の環境が悪化する事と、子どものデジタル化も無関係ではないと考えています。



藤沢市中学校 全員給食はランチボックスに？！

藤沢市教育委員会は、2月12日(木)、2月藤沢市教育委員会定例会その他(1)で、藤沢市中学校給食検討委員会からの検討結果報告を踏まえ検討してきたとして、今後の中学校給食について「センター方式とデリバリー方式を併用した、ランチボックス形式による全員制給食が望ましい」という方針を提起しました。

なお、2月19日藤沢市議会子ども文教常任委員会で、今後の中学校給食のありかたとして同じ方針が提示されています。

次は資料1「今後の中学校給食について」からの引用です。(下線は引用者)

(4) 検討結果報告書の概要

ア 選択制か全員制かについて

小学校からの6年間に引き続き、義務教育の9年間継続した食育を実施する必要がある、そのため、生徒が食に関する知識を正しく身に着けるため、生きた教材としての給食が大変重要であることなどから、全員制に移行することに伴うアレルギー対応・日課見直し・教職員への負担など詳細に検討すべき課題はあるものの、全員制が望ましい。

イ 給食実施方式

自校方式、親子方式、センター方式、デリバリー方式の4方式がある中で、デリバリー方式については、全員制で実施するのに必要な食数を確保できないことから、除外した。

自校方式及び親子方式については、中学校及び小学校の敷地に余地がない学校があり全校での実現が困難な状況にある。センター方式については、現行のデリバリー方式との併用により全員制の実現が可能となる。

なお、デリバリー方式では食缶形式を取り入れられないことから、食缶形式よりランチボックス形式の方が、全生徒へ同一の献立の提供が行えるため統一的な食育が実施しやすいなどの優位性がある。

これらのことから、全員が同じ給食を食べることによる食育の推進と学校現場への過度な負担とならない配慮、またなるべく早い全員給食の実施に向けた期間や費用面を考慮した方式が望ましく、給食センターを整備し、センター方式とデリバリー方式を併用した、ランチボックス形式による全員制給食が望ましい。

資料1 今後の中学校給食について(154ページ) 次の当会 HP のサイトでご覧いただけます。

https://mkfnet.com/wp-content/uploads/2026/02/202602sonota_20260213172930.pdf

〈QRコード〉⇒

